

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

2015年11月号

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 小久保 正

発行所

日本クリスチャン・アカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第569号

70年前の夏、ヒロシマとナガサキの頭上で核爆弾がさく裂し、20万人もの人が命を奪われ、その何倍もの人が、生涯後遺症と放射線障害に苦しむことになった。これ以後、大国は競って核兵器で武装し、今も新たに核兵器で武装しようとする国が絶えない。今ではすでに、15,000発もの核兵器がいつでも発射できる状態にある。ヒロシマとナガサキの惨状を見た人達は、こんな残酷な兵器は二度と使わない約束を結ぼうと呼びかけてきたが、未だにその合意に達していない。被爆国日本も、アメリカの核の傘の下に留まることをよしとし、その合意に加わらない。これらの核兵器が全部さく裂したら、生き残る者は一人も無いと言っている。

一方爆弾の原理となった核反応を発電に使えば、利するところが大きいと云って、多くの国が原子力発電(原発)を推進した。日本でも54基もの原子力発電所が作られ、これに必要な電力の30%を依存することになった。しかし原発においても、核反応を完全に閉じ込めることは難しいと警告する人もいた。事実、スリー

マイル島で、チェルノブイリで原発が暴走し、加えて日本でもフクシマで原発が暴走した。その度に、多くの人が長期に亘って命の危機にさらされた。フクシマでは、事故後4年以上経った今も住む所を追われた12万人の人が、その被害に呻いている。幸いな条件が重ならなければ、首都圏までも放射線の被害に晒されていたところだと言う。原発に絶対安全はあり得なく、一端事故を起こせば、その被害は甚大である。

創られたいのちを慈しむために

日本クリスチャン・アカデミー代表理事

小久保 正



ルギー源としては、太陽光、風力、水力、地熱などの再生可能エネルギーがある。原発は、10万年後までも危害を及ぼし続ける放射性廃棄物を生み出す。原発に依存し続けると、この処理不能な廃棄物を増やし続け、後の世代に負いきれない重荷を負わせることになる。日本では、原

発の使用済み核燃料からプルトニウムを取り出している、これは、核燃料として再利用するためと称しているが、その利用は進んでいない。プルトニウムはいつでも核兵器に転用可能であり、日本のプルトニウム保有量はすでに原発6,000発分にも達している。これは、周辺国にとって脅威である。

発が再稼働し、愛媛県の伊方原発がこれに続くようとしている。

核技術は、核兵器であれ、原発であれ、創られたいのちを根こそぎ奪う技術である。それにも拘わらず日本は、核技術への依存から抜け出せないでいる。まさに「核」の呪縛の下にある。その縄目からの解放は、いかにして可能であろうか。私達は、創られたいのちを慈しむために、核の縄目から解放する道を真摯に探りたいと願う。そのため2016年新年早々、1月10日(日)〜11日(祝月)に、「核」の縄目からの解放に向けて」と題して修学院フォーラムを開催することにした。フクシマで被災者と共に歩んでこられた川上直哉牧師と、フクシマ以前から原発に依存しない社会の構築を具体的に提言してこられた飯田哲也氏からお話しを伺い、講師を囲んで参加者一同で、心をこめて考え合いたいと思っ

是非多くの方がこれに参加して下さり、創られたいのちを慈しむために、一緒に歩み出して下さるようお願いしたい。(京都大学、中部大学名誉教授)

関東活動センター

●2015年度 関東フォーラム 宗教対話II

「礼拝のためのボイストレーニング」

講師

日本キリスト教団八王子
栄光教会担任教師、声優

友野富美子さん

2015年9月28日(月)〜10月26日(月)(全5回)

会場 日本聖書神学校

共催 日本聖書神学校キリスト教研究所



九月二八日から週一回、月曜日の午後に、「礼拝のためのボイストレーニング」と題して五回の講座が開かれまし

た。この講座は、「声」そのものの質をよくすることが目的ではありません。「礼拝のための」というところにポイントがあります。説教や聖書朗読、式文の朗読、司式者の言葉が、神さまにお仕えし、会衆に届く言葉となるためのトレーニングをする、ということなのです。今までこのようなことはあまり必要と考えられていませんでした。神学校にもそのようなプログラムはありませんし、説教者も司式者も、原稿までは用意してもその先は「ぶっつけ本番」だったのではないのでしょうか。

そのような中で、この講座に興味を持ち、参加された方が十数名もいらしたことは驚きでした。教職者も信徒の方も輪になって、まず自分の体

に触れながら状態を確認し、姿勢と呼吸を調べ、声を出していきます。ここまでは個人の作業ですが、礼拝は信仰共同体の作業です。「言葉が相手(会衆)に届いているか」、これを実践し、確認していきます。実際に声のキャッチボールをしたり、リタニーを試みます。聖書を朗読しても、

関西セミナーハウス活動センター

●2015年度 修学院フォーラム「いのち」第2回

「赤ちゃんがほしい!不妊治療の進歩は、
本当に女性に恩恵を与えているのでしょ
うか?産科医の立場から」

西神戸医療センター産婦人科医長 川北かおりさん

2015年9月26日(土)

生殖補助医療の技術が高度

に発達した結果、多くの人が不妊治療を受けるようになった。日本では今、約27人に1人が体外受精によって生まれている。

しかし、女性たちが安易に不妊治療を希望し、不妊治療専門医も、安易にその希望に応じるため、女性と子供が様々ないのちの危機と格闘する結果を招いている。いのち

を育むべき技術が、いのちを損ねている現実をしつかり見つけ、生命操作は、人を幸せにするかを考えたいと願ってこのフォーラムを企画した。

発題は、様々な病院を経て、今は西神戸医療センター産婦人科医長を務めておられる川北かおりさんにお願ひした。川北さんは、浜松医科大学在学中に、ネパールへの医療協力を自らの使命と定めておられた伊藤邦幸、聡美夫妻の夜間講座につながり、たまたまネパールへの3度目の出発に備えて準備しておられた聡美夫人が富士山頂付近で滑落死されたのに出会い、その遺志を継ごうとして産科医になられた方である。

川北さんは、身体状態が整っていないのに安易に不妊治療を受け、結果として本人も子供も生死をさまよう事態に立ち入った例や、とにかく子供が欲しいと言って奥さんに不妊治療を受けさせ、妊娠したら、出生前診断を受けさせ、完璧な赤ちゃんでなければ中絶を迫る夫の例や、高校生の時結婚し、親に連れられて不妊クリニックに行つて妊娠し、切迫早産のため長期入



院が必要になったが、点滴に繋がれてベッド上で安静にしているのが苦痛で、あばれ早産してしまい、その結果うまれた赤ちゃんを抱きもせず、見もしない女性の例などを紹介された。

印象的であったのは、妊娠中絶を希望する人へ対応であった。

中絶は殺人ですよ、私は絶対しませんと云って帰すことは、楽な方法である。しかし、それでは患者さんが途方に暮れて死ぬことを選ぶかもしれない。そこで、その患者さんに寄り添い、方向付けをするためにその回だけは引き受けることにしている。中絶処置が始まり、終わるまでの何日かを患者に寄り添う。亡くなつて出てきた赤ちゃんに面会させ、その足型を取つて渡し、二度と許さないと云つて帰す。イエスの姿をそこに見るような気がした。

この課題を沢山の人に共有して欲しいと願つて、このフォーラムへの参加を多くの人に呼び掛けたが、参加して下さったのは7名であった。しかし、その7名の中に教育大学4年生の女子学生一名

と、若い看護師一名がいた。のフォーラムは開くに値したこの二人のためだけでも、こ と思つた。

●2015年度 開発教育セミナー 第3回 「子どもの貧困」私たちの社会に何が おこっているのか？」

朝日新聞生活文化部記者 中塚久美子さん
児童自立援助ホーム「あらんの家」副理事長兼ホーム長 浜田 進士さん
2015年9月12日(土)〜13日(日)

セッション①では、まず自分たちの身近にいる子どもの貧困の実態について交流した。電気を止められ、一つのラーメンを3人で分けている母子家庭。通信制高校の学費が滞り、高卒資格を得られず、就職など出口でつまずく子どもなど、各地域から厳しい家庭背景が浮かび上がった。その後、中塚久美子さんから、子どもは貧困を「孤立や無力感で経験する」ということについて具体的なデータや事例に基づいてお話を聞いた。特に母子家庭の8割の親は働いているのに、ひとり親家庭の貧困率が先進国で最悪であり、家計の補助として据え置かれてきた女性の低賃金も要因の一つであると構造的な問題も指摘していただいた。

セッション②では、子どもの貧困の背景や要因をグループで出し合った。それを受けて、中塚さんから各地の具体的な取組の事例をお話しいただいた。教育による貧困の連鎖を食い止めるため、無料の学習会や居場所づくり、子ども食堂や子どもの地域通貨を活用した取組など、政策に頼らず顔が見えるつながりの中で動き始める人々に勇気と希望を分けていただいた。

セッション③では、家族と離れて暮らす子どもたちに焦点を当て、まず参加者とともに、そうした子どもたちがどこで、どれくらい暮らしているのかを確かめ合つた。続いて、2年前に奈良市に自立援助ホーム「あらんの家」を設立した浜田進士さんから「子どもの権利を守る」とはどういうことかについて、日々の活動を通して見えてきたものを語っていただいた。

利用者のほとんどが被虐待経験を持ち、入所直後は、人としての自分に不全感と傷を抱えながらもがき、その不安や生きづらさから暴力をふるうこともある。安心して食事できる「当たり前」の毎日を



取りもどし、一人ひとりが生きたる価値がある大切な人であると受け入れらるるようになり添う姿から多くのことを学んだ。



関西セミナーハウス

＜修学院きらら山荘＞

各種セミナー、会議、合宿、修養会、ご宿泊に。茶室、能舞台もあります。お問合わせはフロントまで。

TEL 075-711-2115 (代)

プログラム案内

◆**関東活動センター**

■**聖書講座 2015「新しい聖書の学び」**

「イエスの譬え話」に響く声」(全 10 回)

講 師：山口里子さん (日本フェミニスト神学・宣教センター 共同ディレクター)

日 時：③12月8日⑨2016年1月12日⑩2016年2月9日、火曜18:30~20:00

会 場：早稲田教会ロビー

参加費：1,200 円/学生 500 円

テキスト：『イエスの譬え話 1』

共 催：早稲田奉仕園

■**関東フォーラム宗教対話 I**

「古典で読む 20 世紀 第 II 期」

第 4 回「K. バルト『教会と国家 I』(新教出版社)」

日 時：11月27日(金)18:30~20:30

講 師：武田利邦さん (農村伝道神学校講師)

会 場：早稲田教会ロビー

参加費：500 円

第 5 回「E・フロム『自由からの逃走』」

日 時：2016 年 1 月 22 日 (金) 18:30 ~ 20:30

講 師：工藤宣延さん (明治学院大学講師)

財団本部
http://www.academy-nippon.com
関東活動センター
http://www.academy-tokyo.com
関西セミナーハウス
http://www.kansai-seminarhouse.com/
関西セミナーハウス活動センター
http://www.academy-kansai.org

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 小久保 正
本部事務局
〒 606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
TEL 075-711-2147
FAX 075-701-5256
関東活動センター
〒 169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
日本キリスト教会館 6 F
TEL 03-3207-6198
E-mail:info@academy-tokyo.com
関西セミナーハウス /
関西セミナーハウス活動センター
〒 606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
FAX 075-701-5256
関西セミナーハウス
TEL 075-711-2115
E-mail:info@kansai-seminarhouse.com
関西セミナーハウス活動センター
TEL 075-711-2117
E-mail:office@academy-kansai.org

会 場：早稲田教会 1 階ロビー
参加費：500 円

■**関東フォーラム宗教対話 III**

「これでいいのか日本のキリスト教」第 3 回

日 時：2016 年 1 月 23 日 (土) 14:00 ~ 16:30

講 師：野田沢さん (SCF 主事)

会 場：早稲田教会 1 階ロビー

参加費：1000 円、学生 500 円

共 催：早稲田奉仕園

■**第 7 回神学生交流プログラム**

主題:「今、旧約聖書の世界から考える」

講 師：並木浩一さん (ICU 名誉教授)

校 長：関田寛雄さん (日本基督教団神奈川教区巡回牧師)

日 時：2016年3月7日(月)~9日(水)

会 場：聖公会ナザレ修女会エビファニー館

対 象：学校推薦を受けた神学生

◆**関西セミナーハウス 修学院きらら山荘**

■**月釜 清心会**

日 時：12月20日(日)、2016年2月14日(日)

9:00 ~ 15:00 受付 (1、8 月を除く年 10 回)

於：関西セミナーハウス

年会費：5,000 円、臨時会費 1,000 円

◆**関西セミナーハウス・関西セミナーハウス活動センター共催**

■**2015 年度もみじまつり**

日 時：2015 年 11 月 23 日 (月祝) 9:00 ~ 16:30

会 場：関西セミナーハウス

お茶席、邦楽席 (箏演奏)

特別展示「アジアキリスト教美術展 一竹中 正夫 コレクションより」

ジャズピアノコンサート「戦後 70 年、日本と世界の秋の音楽」

竹中 真さん (ピアニスト、作曲家)

前 売：3,000 円 (お茶席、弁当付)

◆**関西セミナーハウス活動センター**

■**2015 年度 開発教育セミナー**

第 6 回「ファシリテーターの聞き方、話し方、向き合い方」

講 師：木下 理仁さん (かながわ 開発教育センター理事・事務局 局長)

日 時：12月5日(土)16:00 ~ 6日(日)12:00

会 場：関西セミナーハウス

参加費：10,500 円 (1泊 2食込)

■**2015 年度修学院フォーラム**

「エネルギーを考える」第 4 回 (「社会」第 1 回)

「核」の縄目からの解放に向けて」

『『フクシマ』の声と国際ヒバクシャ 連帯」

講 師：川上 直哉さん (NPO 法人 東北ヘルプ事務局長)

「エネルギー・デモクラシー～地域 からのエネルギー変革」

講 師：飯田 哲也さん (認定 NPO 法人 環境エネルギー政策 研究所所長)

日 時：2016 年 1 月 10 日 (日) 16:00 ~ 11 日 (月祝) 16:00

会 場：関西セミナーハウス

参加費：一般 14,000 円、学生 5,000 円 (宿泊 3 食込)

■**2015 年度修学院フォーラム「社会」**

第 2 回「キリスト教徒の良心と現実の政治の間で」

講 師：佐藤 優さん (作家・元外務省主任分析官)

日 時：2016 年 1 月 30 日 (土) 13:30 ~ 17:30

会 場：関西セミナーハウス

参加費：一般 3,000 円、学生 1,000 円

賛助会費・寄付金報告		
2015 年 9 月 1 日 ~ 2015 年 9 月 30 日 (順不同・敬称略)		
◆ 財団本部	小林 裕一	5,000
◆ 寄付金	丸山 まり子	5,000
	小澤 妙子	5,000
武藤 高司	伏木 信次	5,000
こま ち 会	金山 顕子	5,000
中村 信博	川北 かおり	10,000
鳥井 清司	◆ 寄付金	
小久保 正	比嘉 美智子	5,000
神保 正男	特定非営利活動法人沢内伯楽	10,000
中井 博雅	榎本 栄次	10,000
◆ 関西セミナーハウス活動センター	織田 雪江	10,000
◆ 賛助会費	中島 健二	20,000
比嘉 美智子		5,000

以上、感謝をもってご報告申し上げます。